

## 新年のご挨拶

一般社団法人 全日本建設技術協会 会長

おお いし ひさ かず  
大石 久和



あけましておめでとうございます。昨年は年明け早々に能登半島地震に見舞われるなど、災害列島に暮らす厳しさを実感させられて始まりました。今年こそ、自然災害も少ない穏やかな年でありますようにお祈り申し上げるとともに、会員の皆様にとって成果豊かな年になりますよう心よりご祈念申し上げます。また、ご家族のご繁栄をあわせてご祈念いたします。

昨年10月に衆議院選挙が実施され、政権与党が過半数割れとなりました。法案の策定や予算の執行に今まで以上の手続きや全体合意の困難さを伴う時代が始まってしまいました。それだけでなく、会員の関心事であるインフラ整備についての議論がまるで不十分だったわが国なのに、更に難しい状況が生まれてしまいました。

昨年の本誌12月号「上徳不徳」に、世界における科学技術力の優位性でしか存在感も経済的優位性も持ち得ない国なのに、小中学校の理科の授業時間数がここ数十年でほぼ半減するという誤った政策をしてきてしまったことをご紹介しました。

昨年のノーベル賞の理工部門はAI研究者に集中しました。AI研究の国別ランキングは、1位はアメリカ、2位は中国であるのに対して、国としての科学力が低下した日本は12位にとどまり、インド（10位）より下位になってしまっています。

国と地方の行政において、会員のほとんどが理系出身者で構成されるほぼ唯一とも言える組織である全建は、会員が統計や数学が理解できる者として、更なる情報発信をしていく使命が今日ほど強調される時代はないと考えています。

そのためにも、全建の活動領域を更に広げて参りましょう。会員各位には、だからこそ「一人一声運動」など新たな会員の加入への取組が是非とも必要だと強く訴えたいと存じます。

今年も全建本部は、会員の皆様の活動のお手伝いに汗をかいて参ります。あらためて、このことをお誓い申し上げて新年のご挨拶といたします。